



2015(平成27)年度  
**大学学部入学式式辞**

2015(平成27)年4月1日

新入生の皆さんご入学まことにおめでとうございます。慶應義塾を代表して皆さんを歓迎し、入学をお祝い致します。また新入生のご家族、関係者の皆さまにも心よりお慶びを申し上げます。

慶應義塾では学生を「塾生」と呼び慣わしています。ですから皆さんは今日から慶應義塾の塾生になられたわけです。またその皆さんが卒業されますと、こんどは「塾員」と呼ばれるようになります。今日この式場にもたくさんの方々がお待ちですが、とくに後方スタンド席には、卒業50年目の塾員の方々が皆さんの入学をお祝いするために全国各地から駆けつけてくださっています。

今から50年前の1965年に卒業された、約4300人の方々に招待状を出したところ、今日は午前午後合わせて、そのほぼ半数の2000人近くの方がご出席です。まことに有り難いことであります。新入生とともに厚く御礼申し上げます。

さて皆さんはとても素晴らしい大学に入学されました。それはもちろん素晴らしい

しい教師、素晴らしい学友に恵まれた大学であるということもありますが、何よりも福澤諭吉の作った学塾だからです。これは他の学校には無い特権です。

ご存知のとおり慶應義塾は今から157年前の1858年に福澤諭吉、福澤先生によって創設されました。それは激動の幕末でありました。

福澤先生は封建の江戸時代に生まれ、幕末に成人し、維新を経て近代の日本を生きた人です。この様な、明治維新を挟み封建と近代の両時代を生きた、自らの同世代人の人生を、先生は「恰も一身にして二生を経る」、つまりまるで一人の人間が二つの人生を生きたようなものと表現しています。このとても大きな変化の時代に福澤先生は、学問によって社会に貢献するために慶應義塾を作られました。

学問によって人材を育成し、学問を発展させることで世の中に新たな叡智をもたらすということです。これによって国の独立を守り、日本の近代化を進めようと考えました。この学問について、福澤先生が特に強調したのが、「実学」です。実学とは役に立つ学問という意味もありますが、福澤先生にとって実学とは、先

生自身がその著作の中でこの言葉に「サイヤンス」、つまりサイエンスとルビを振っていることから分かるように、自然科学、人文・社会科学など「科学」のことでした。

慶應義塾大学にとって有り難いのは、この学問、とくにサイエンスという意味での実学によって社会に貢献するという福澤先生の建学理念を現在の社会において実現することが、すなわち今日の私たちの目的となる、ということです。というのは、今日の私たちもまた、福澤先生の時代とはその内容は異なるとはいえ、大きな変化に直面しているからです。その変化は、地球温暖化、少子高齢化、国家財政逼迫化、そしてグローバルな市場競争激化といった、私たちの住む社会の持続可能性そのものを問うような変化であり、私たちはそうした変化に対処していかねばなりません。

そこで私たちはそうした世界規模での構造変化に対処するため、「実学（サイエンス）」によって地球社会の持続可能性を高める」というテーマの研究・教育事業を進めています。ちなみにこの事業で慶應義塾大学は、政府のスーパーグローバル大学創成支援事業から、世界トップ

レベルの教育、研究を行う日本の13の大学のひとつに選ばれています。そこでは、高齢化に対処して豊かな長寿社会を作る「長寿」、様々なリスクの増大に対処して安心できる社会を作る「安全」、そして市場や技術の構造変化に対処して豊かな社会を作る「創造」、という三つの研究、教育クラスターを立ち上げました。クラスターとは「かたまり」というような意味ですが、ここを舞台に慶應義塾の総力をあげて世界規模の課題を解決するための研究と教育を進めて行きます。

その中からわくわくするような研究・教育プロジェクトがたくさん出てくると期待されていますし、皆さんにもそうしたプロジェクトに何らかの形で参加する機会があると思いますので、楽しみにしててください。

ところで慶應義塾大学がそのようなかたちで社会に貢献することが可能であるのは、そうした活動に学生も参加してくれるからです。慶應義塾大学の研究、そして教育活動には、学生が主体的に参加しています。これは慶應義塾創立以来の伝統でもあります。それが「半学半教」といわれるものです。

つまり慶應義塾では、塾生はただ一方

的にものを教わるだけでなく、自分が先に学んだこと、得意なことを他の塾生にも教え、また他の塾生からその得意なことを教わるということです。明治4年、1871年の「慶應義塾社中之約束」では、「此学科を学びて、彼の学科を教る者は、一方より見れば生徒にして、一方より見れば教授方なり」と半学半教の原則を明快に定めています。そしてこの伝統は今日の慶應義塾大学にも脈々と受け継がれています。

とくに皆さんの多くが参加されるであろう、人文社会科学系ならばゼミナールといわれる研究会、自然科学系であれば研究室などにその伝統は強く残っています。また皆さんの多くがすぐに学ばれる日吉キャンパスにおいては学部共通のアカデミック・スキルズといったプログラムがあり、やはり半学半教の伝統を受け継いでいます。さらに体育会の活動や、芸術・学術系の課外活動などの中にも、部員同士が互いに教え合い、高め合うという半学半教の良き伝統を見ることができま

す。こうして互いに教え合い高め合う「半学半教」が可能となる一つの条件は、それぞれの塾生が、他の人に教えることのできる、あるいは他の人を触発すること

のできる何かを持っているということですね。慶應義塾大学に入学を許された皆さんは、一人一人何かを必ず持っています。さらにそれに磨きをかけてください。

そしてこの半学半教がうまくいくためのもう一つ不可欠な条件が、互いに学び合い、触発し合う者同士の平等、対等な関係ということです。そもそも福澤先生が半学半教を義塾のあり方として定められたのは、義塾においては、塾生と塾生の間はもちろんのこと、教員の間、そして教員と塾生の間でも平等な関係がなければならぬと考えられたからでした。それは学問に完成というものはなく、慶應義塾においては教員も塾生も共に学び、共に教え、互いに高め合う仲間だ、と考えられたのです。

『学問のすゝめ』の有名な冒頭部分で「天は人の上に人を造らず、人の下に人を造らずといへり」と書いた福澤先生は、それに続けてそうした本来平等なはずの人の間に、賢人と愚人の差が生じるのは学問の有る無しによると説いています。

維新によって士農工商の身分が無くなり、四民平等の世の中になったことで、固定的身分ではなく、学問の有る無しで人の価値が決まる時代になったと呼びかけら

れたわけで、それは、これからは学ぶ者同士として誰もが平等であると説かれたということでもありました。

こうした学問をする者の間の平等の大切さを、身を以て示すためでしょうか、福澤先生はたとえ政府の高位高官であろうと、若い新入塾生であろうと、人と話す時は相手を必ず「何々さん」と「さん」づけで呼び、相手によって呼び方を変えなかったそうです。こうした塾生同士、塾生と教師の間のフラットな関係は今日も慶應義塾には色濃く残っています。皆さんも教室でどうか積極的にクラスメートや教員に話しかけてください。

以上のことは、慶應義塾大学において、塾生はけしてお客さんではない、ということの意味しています。半学半教ということは、塾生もまた教育、研究の一翼を担う主体だということです。ですからあらゆることに主体的に参加すればするほど、慶應義塾大学は皆さんにとって意味のある大学になっていきます。そしてこの互いに学び合う半学半教の関係は、皆さんが慶應義塾大学を卒業された後も、こんどは卒業生、つまり塾員の間関係として継続していくものでもあります。

皆さんはこれから「半学半教」の中で

大きく成長していけることと思います。そして友人同士互いに高め合う関係は一生続くものとなるでしょう。今日はその始まりの日であるといえます。

改めて皆さんのこれからの学生生活が、実り多い、そして楽しいものであるよう祈念して私の式辞と致します。さて学事

報告にもありましたように、今日の入学式には、海外からの留学生の方々も多数出席しておられますので、最後に短く英語による式辞も付け加えさせて頂きたいと思えます。皆さん本日は誠にめでとうございました。

Since there are a number of international students joining Keio today, I would like to make some remarks in English briefly. To all the new students, on behalf of the entire community of Keio University, I would like to welcome you all and to extend my heartfelt congratulations. I would also like to offer my sincere congratulations to your families and friends.

Keio University was founded 157 years ago in 1858 by Yukichi Fukuzawa, or Fukuzawa-sensei, during the upheaval at the end of the feudal Edo period. In a time of such great change Fukuzawa-sensei established Keio to contribute to society through learning. Our aim is to realize his founding principle in coping with issues we face today such as an aging population, increasing natural and manmade risks, expanding global economic competition and so on. In order to make this possible, the active participation of students in research and education is indispensable.

In this respect, we recognize the importance of our long-standing tradition of “learning while teaching, teaching while learning”, in which advanced students teach other students while continuing to learn for themselves. Given this tradition is still honored at Keio University today, I am very confident that you will learn from your fellow students. At the same time you can teach your fellow students what you have learned. And of course you will learn a great deal of things from our faculty members, but you will also inspire them in many aspects.

So I am very much hoping that you will actively participate in all the classes, seminars, and research projects that you are interested in. Once again I congratulate you all and I wish you a very meaningful and enjoyable student life here at Keio. Thank you all very much.